

幸と爺爺のオリエンテーリング

渡辺幸（小学校4年生）/武石雄市（66歳）

No.17

自然環境その1

ハクビシン(白鼻心)

山形2日間大会こぼれ話から

ゆき「じいじい、この写真に写ってるのキツネ？」
爺爺「キツネじゃないんだけど、ゆき何だと思う？」
ゆき「わかんない。ママ この動物の名前分かる？」
爺爺が直ぐに正解を教えないので母（保健師）に救いを求めた
ママ「何これ？たぬき？キツネ？」
爺爺「残念でした。ジャコネコ科の獣で、正解は、ハクビシンです」
ママ「えっ！、ハクビシン？ハクビシンって、あのハクビシン？幸！触らないで！！」
爺爺「これ写真だよ、そんなに神経質になるなよ。でも、そうだよ。」
ゆき「爺爺、ハクビシンがどうしたの？」
爺爺「うん、今、中国や台湾で原因不明の新型肺炎が流行っていて、毎日多くの人が死んでるの知ってる？」
ゆき「うん、テレビに出てくる人がマスクを被ってるあれのことでしょう」

爺爺「そうだ。その新型肺炎を最初に人間にうつしたのがハクビシンじゃないかと疑われているんだよ」
ゆき「日本にも居るのか、でもこれ死んでる写真だよ、どうしたの？」
爺爺「県民の森の道路で交通事故でした。元々台湾や中国南部、東南アジアの暖かい所に居る動物だが、何時のころからか日本にも誰が連れて来たか移り住んで野生化してしまったんだよ」
ゆき「そうだ！爺爺の家にも1匹居るじゃん」
爺爺「あー、剥製にしてあるんだけど、あれも交通事故だったんだ」
ゆき「大きいんだね、頭から尻尾まで75cm。中国人はこれを食べるんだね」
爺爺「日本人は食べないけど、県民の森では森の中にどんな動物が住んでいるか調べているから、所長さんが身長や体重を測ったんだ。新型肺炎の媒体に疑われているし、本州ではどこにもでもいるはずだから、オリエンテーリングの後、食べ物に触る時は良く手洗いしてからにしようね」
ゆき「うん、わかったよ」

自然環境その2 フクロウ(梟)

爺爺「ゆき、次はこの写真だけど何でしょう」
ゆき「木の根元に白いボールが3個か、ゴルフボール？」
爺爺「ブ・ブー、フクロウの卵だよ」
ゆき「フクロー？、県民の森にフクローも居るの？」
爺爺「そうなんだ、地図調査したら小道の脇から親フクロウが飛び出してビックリしたよ」
ゆき「フクロウもビックリしたんじゃない。鳥の巣のように見えないけど、卵を温めてたの？」
爺爺「そうなんだけど、困ったよ。県民の森はもう直ぐオープンするので大勢の人が巣のそばを通るんだ。卵を温めて居る暇がないので雛が孵らないかもしれないんだ。所長さんに巣の場所を教えて、雛がかえるまでみんなを立ち入り禁止にしましょう、と提案したんだけど、逆効果になるからって立ち入り禁止にしないことになったんだ」
ゆき「フクロウはどうしてそんなところに巣を作ったんだろうね」



交通事故のハクビシン



ゴルフボールのような鳥の卵

爺爺「フクロウは他の鳥のように木の枝を運んだりして巣を作らないんだ。普通は大きな木の空洞を利用して人間や他の動物が通っても安全なんだけど、あの付近に空洞のある大きな木が無かったんだね」

ゆき「今度の大会でもそこを通るコースがあるの？」

爺爺「それも心配だったんだけど発見が早かったので巣の近くを通らないコースにもらったんだ」

ゆき「よかった。餌はあるのかな」

爺爺「うん、フクロウは普通夜に出てネズミとかウサギを餌にしているんだ。水の中に居る魚や動物も捕らえるんだよ」

ゆき「魚も食べるの？」

爺爺「そうだよ、眼が良いし、木の枝に留まっていて餌を目掛けて一直線に飛び込み、先ず失敗が無いよ。爺爺が見つけた巣の近くにも沼があって蛙やサンショウウオが居るからね、餌は豊富なんだよ」

ゆき「ぼくも行って見たいけど、フクロウをビックリさせないように我慢するか」

巣の在り処を、みんなで保護したつもりだったが、5月に県民の森がオープンしたら、心配が的中し、とても残念なことにフクロウは巣に卵を残したまま放棄してしまった。

視力、聴覚が発達しているフクロウには100m位先に近づく人間にも脅威を感じ、頻りに抱卵を放棄して飛び逃げなければならなかったのだろう。我々は、良いテレインを求めて、自然を利

用させてもらっているが、そこには、原始時代からの生息動物が居ることに配慮しなければならないでしょう

スタート時刻

山形2日間大会の2日目

爺爺「ゆき、ラストコントロール付近でうろろうしてたのはどうしてなの」

ゆき「ううん、なんでもないよ」

爺爺「おかしいな、あそこまで走って来ててさ、急に走るのやめたじゃない」

ゆき「だってさ、みちあきくん走るの遅いんだもん。ぼく達、タベスタート順にゴールすることに決めたんだ」

爺爺「そんな取り決めはフェアじゃないよ、オリエンテーリングは競技だからみんなも真剣に走ってるでしょう。綺羅君だってママと精一杯はしって頑張っているし、そんな約束は今度からやめてください」

ゆき「はい。ごめんなさい」



「速く走ろう！」ママと綺羅君

スタート時刻といえば、一頃、夫婦で子供バトンタッチのために配慮の話題があったが、山形大会では二組のご夫婦から配慮の要請があった。それほど多くない参加者数なので連続したスタート時刻内ではとても無理、夫婦ともショートコースだが、それでも直前の走者は誰も居ない。競技面から少し公正度に難点は否めないが、Eクラス以外なら最大限配慮して参加者離れにストップを掛けたいと思うのは爺爺だけだろうか。

(武石雄市)



「ママー、がんばれー」しのぶママを応援する桃ちゃん。